

一二八二番

はしたて 倉崎山に 立てる白雲 見まく欲り 我
がするなへに 立てる白雲

一二八三番

はしたて 倉崎川の 石の橋はも 男盛りに 我が
渡してし 石の橋はも

一二八四番

はしたて 倉崎川の 川のしづ菅 我が刈りて 笠
にも編まぬ 川のしづ菅

一二八五番

はるひ 春日すら 田に立ち疲る 君は哀しも 若草の
妻なき君は 田に立ち疲る